



よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 RI会長: フランチェスコ・アレツツオ

2025-26年度 会長: 松尾 泰明

幹事: 垣本 英作

S.A.A.: 岩西 智宏

クラブスローガン

「繋ごう」～みらいのために～

No.3624 1月27日(火)



本日の卓話 1月27日(火)

「和歌山県の医療体制」

上野 雅巳 会員



次週の卓話 2月3日(火)

「米山奨学生卓話」

米山奨学生

薛 安達さん



先週の例会記録

*ロータリーソング

我等の生業

*ビジター紹介

ゲスト 社会福祉法人 和歌山いのちの電話協会 理事 山本 牧さん、

米山奨学生 薛安達さん

*出席報告

(会員数78名、免除会員4名)

本日出席(1/20) 54名 71.05%

*マイキャップ

和東へ1名、北へ1名

*S. A. A.
(ニコニコ箱)

松尾泰明さん、垣本英作さん、糸川文雄さん、竹中喜廣さん、羽原俊哉さん、 笹本昌克さん、廣井久道さん、中野智一さん、豊田英三さん、慈幸信治さん、

瀬川良浩さん、野井和重さん、塚本貞治さん、河村秀樹さん、岩西智宏さん、吉田友之さん、野志幸生さん、北山晴造さん

本日合計 ¥60,000 今年度累計額 ¥1,531,465

(財団寄付献金箱)

松尾泰明さん、垣本英作さん、糸川文雄さん、竹中喜廣さん

(米山奨学会献金箱)

松尾泰明さん、垣本英作さん、糸川文雄さん

(青少年育成奨励金)

松尾泰明さん、垣本英作さん、糸川文雄さん、羽原俊哉さん

1月は職業奉仕月間です



誕生日お祝い



会長あいさつ



会長 松尾 泰明

今日は少し冷えますね！
 週末を挟んで、非常に過ごしやすい陽気でありますけれど、明日からは一変、今季最大寒波でしょうか？この日曜日まで続くようです。

気象庁からは、今回は「つづく」というのがキーワードとの発表がありました。断続的に警報級の大雪が予想されるという事のようです。太平洋側でもかなりの降雪の恐れがあるとのことです。

週末は全国で大学入学共通テストが実施されました。公共交通機関の乱れから一部繰り下がり開始した会場もあるようですが、1週間ズレて良かったなーと思いました。

金曜日には首都圏で大規模な公共交通機関の乱れがありました。これも土日でなくて良かったなとニュースを見て感じておりました。

既に空の便は欠航を発表されている路線もあるようです。

お出かけを予定されている方は早めの気象情報の収集に努めていただき、万全な対策をお願いしたいと思います。

会 告

岡公園の北東の角に交番がありますが、その横に、和歌山RC55周年事業で、南釜山RC、板橋RCとともに時計台を寄贈しています。その時計が数年前より故障して作動していませんでした。

この度、和歌山市からその旨連絡をいただき、調査の結果、電池交換で修復可能とのことでしたので、無事修理完了しております。お近くにお越しの際は、またご確認をお願いします。

会員全員で出欠システムアプリをインストール

欠席の方もいらっしゃいます。全員がアプリをインストールするのに少し時間がかかると思います。その後、実際に運用できるまでにはテスト期間と分析する期間も必要になると思います。実際に運用するのはまだ先になると思いますが、年度内に運用にこぎつけたいと考えております。

ご協力よろしくお願いします。

幹 事 報 告

- 例会変更のお知らせ（和歌山アゼリアRC、岩出RC、海南西RC、有田南RC、田辺東RC）
- 2025-2026年度下期会費請求書及び寄付金ご協力のお願い（パーソナルボックス在中）
- 本日 2025-2026年度 市内9RC 会長・幹事会 新春懇親会 18:30～ロイネットホテル
- 本日 2026-2027年度 理事予定者会議 18:30～きっちんまるま
- 台湾地区大会4/17-19 1/23(金)締切
- 回覧：水戸RC ウィークリーレポート
あさひ便り1月号
橋本RC 創立70周年記念誌

委 員 会 報 告

米山奨学生例会出席

せつ
薛 安達さん

米山奨学生カウンセラー

河村秀樹 会員



(左から)河村会員、薛 安達さん、松尾会長



友好クラブ交流特別委員会
松井良樹 委員長
水戸ロータリークラブ公式訪問のご案内

「2026-2027年度 第2回理事予定者会議」開催!

2026年1月20日(火) 18:30～



卓 話

「心開いて耳傾けて」



社会福祉法人
和歌山いのちの電話協会
理事長 加藤和子さん

「いのちの電話」は70年ほど前にイギリスで始められた市民活動です。それが世界に拡がり、53年前に東京で、そして40年前に和歌山にも生まれ、ボランティアが行う電話相談として変わらぬペースで活動しています。「いのち」という大切な言葉を名前に頂き、様々な心の痛みを感じ取ろうとする相談員が多くの相談者の人生を支えています。

心理学を学べる場が少ない和歌山県で、毎年の相談員養成講座は、自ら学び、周りに手を差し伸べたいと考える人々を引きつけました。実際に40年間に約600人がタスキをつなぎながら電話の前に座ってきたことになります。多くの方々のご参加ご協力の賜物です。

いのちの電話でお受けする電話は、解決を目指すよりもならない苦しさを誰かにわかってほしい内容が多いです。ことに顔を出しては話しにくい情けなさや悔めない、疎外されている悲しさや諒めきれない悔しさ、そのような生きる苦しさが語られます。相談員は自分の心を開いて、耳を傾け、複雑な内容を心に入れていくことになります。

職種、人生経験さまざまな相談員皆が、まずここに難しさを経験します。自分の心が硬いと知ります。ところが、毎年の研修を経て次第に心の容れ物が大きくなり、耳を傾けると聞こえてくる相談者の命の力に気づけるようになっていきます。この活動が多くの方々の人生に加えられるよう、お勧めいただければ幸いです。



(左から)紹介者の中谷久生会員、
ゲストの山本牧さんと加藤和子さん、松尾会長